

取扱説明書



自主適合マーク

防火ダンパー

型式：FD-2-7K

温度ヒューズ連動

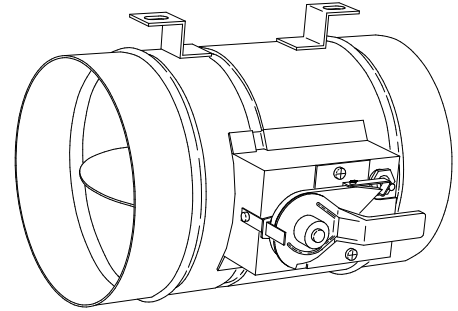
日本防排煙工業会

防火ダンパー自主管理制度適合品

型式承認番号：NBK-02-010

この説明書をよくお読みになり、
正しくお使い下さい。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも
ご覧になれるように大切に保存して下さい。



性能概要

この防火ダンパーは、一般の換気・冷暖房設備のダクト（風道）が建築物の防火区画を貫通する場合に設置する丸形の防火ダンパーです。火災によりダクト内の温度が急激に上昇した場合、温度ヒューズが溶断することにより閉鎖装置が作動してダンパーの羽根が閉鎖し、煙や炎がダクトを通じて他の区画に伝播することを防止するものです。

本製品は、建築基準法施行令 第112条第16項

昭和48年建設省告示 第2563号

昭和48年建設省告示 第2565号

に関連するダンパーの構造基準に適合するものです。

安全上のご注意

必ずお守りください

- 本製品を取扱う人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、必ずお守りいただく事を、次のように説明しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



株式
会社

DAIRITSU

DAIRITSU CO., LTD

本社	〒459-8001 名古屋市緑区大高町字丸の内38-1	TEL (052) 622-6351(代) FAX (052) 622-6355
東京営業所	〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-4-3 (若山ビル2F)	TEL (03) 5637-9921(代) FAX (03) 5637-9923
静岡営業所	〒422-8047 静岡県静岡市駿河区中田2-1-6 (村上石田街道ビル5F)	TEL (054) 289-5255(代) FAX (054) 289-5256
工場	関(岐阜), 名古屋	
関物流センター	関(岐阜)	

◆ 施工時のご注意



注意

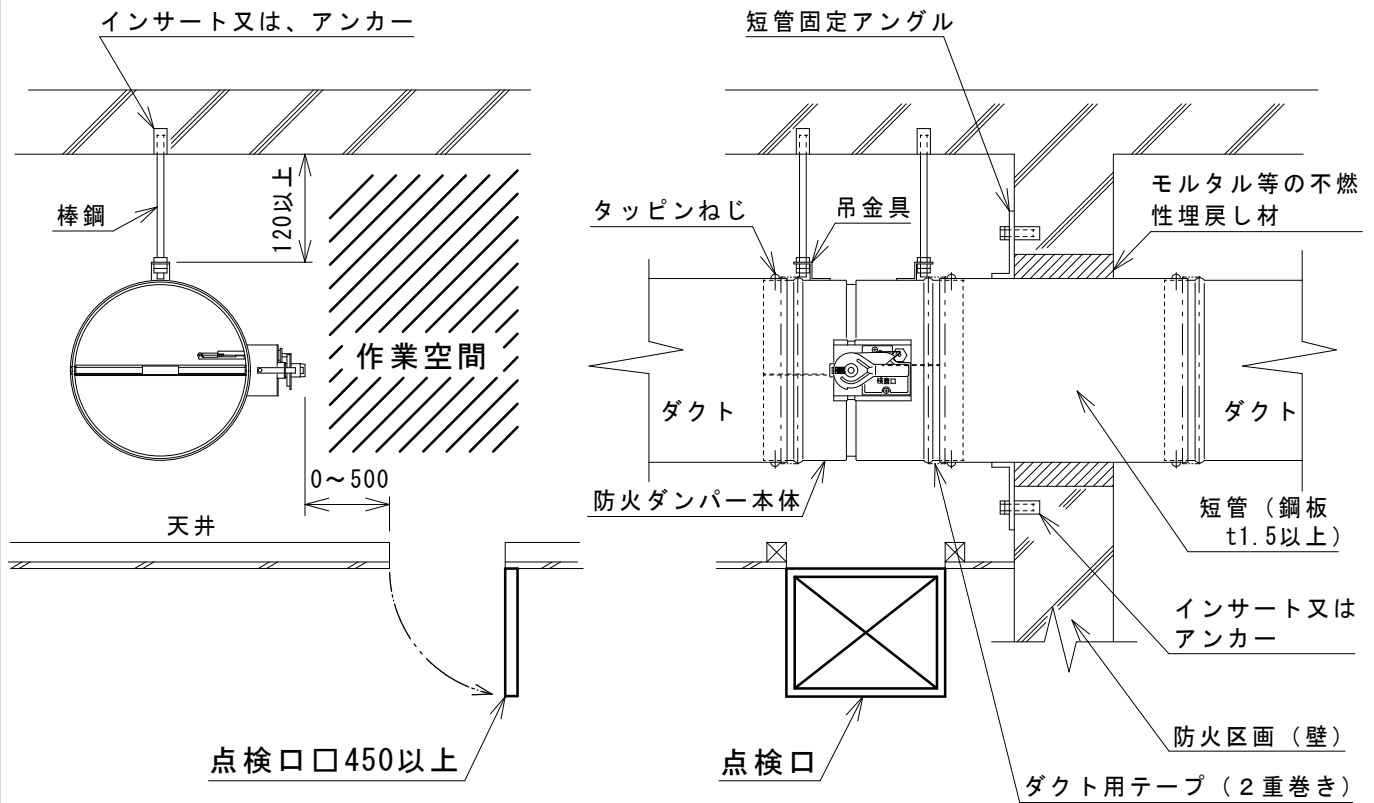
1. ダンパーは、屋外で使用しないで下さい。
(直射日光および雨等により誤作動や不作動の原因となります。)
2. ダンパー搬送、取付時には、必ず軍手または、革手袋を着用して下さい。
(鋼板の切り口や角でケガをする場合があります。)
3. ダンパーは一般(内部静圧±500 Pa以内、風速15m/s 以下)の換気・冷暖房設備のダクト(乱流・脈流の発生しやすい場所は除く)に設ける防火ダンパーです。これ以外の場所や目的で使用しないで下さい。
(誤作動や不作動の原因となります。)
4. 取扱いには十分に注意し、本体および閉鎖装置の損傷・変形がないように施工して下さい。
5. 閉鎖装置および温度ヒューズ装置の保守点検が容易に行なえる作業空間を必ず設けて下さい。
6. 天井、壁等にダンパーの保守点検が容易に行なえるよう、□450mm以上の点検口を必ず設けて下さい。
7. ダンパーの保温およびラッキングを施工する際は、閉鎖装置の摺動部および検査口のフタには施工しないで下さい。
8. 取付完了後、必ず手動にてダンパーが円滑に開閉動作することを確認して下さい。

＝ 施工方法 ＝

1. 国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修「公共建築設備工事標準図」に従って施工して下さい。
2. 構造物の躯体のコンクリート打設時に、ダンパーおよび固定アングル取付予定箇所にあらかじめインサート等を埋めこんでおいて下さい。
3. ダクトの貫通する床および壁等には、ダクト用のスリーブを入れておいて下さい。
4. ダクトまたはダンパーの取付が終わった時に、固定アングルにて短管を固定し、防火区画と短管との隙間をモルタル等の不燃材料で完全に埋戻しをして下さい。
5. ダンパーは、吊金具を利用して棒鋼、ブラケット等で固定して下さい。
6. ダンパーの取付が終わった時は、羽根が円滑に開閉動作することを確認して下さい。
7. 工事が完了するまでの間は、閉鎖装置全体にカバー等をかぶせて、水やほこりがかからないように保護しておいて下さい。

■横走りダクト標準施工図

単位 (mm)

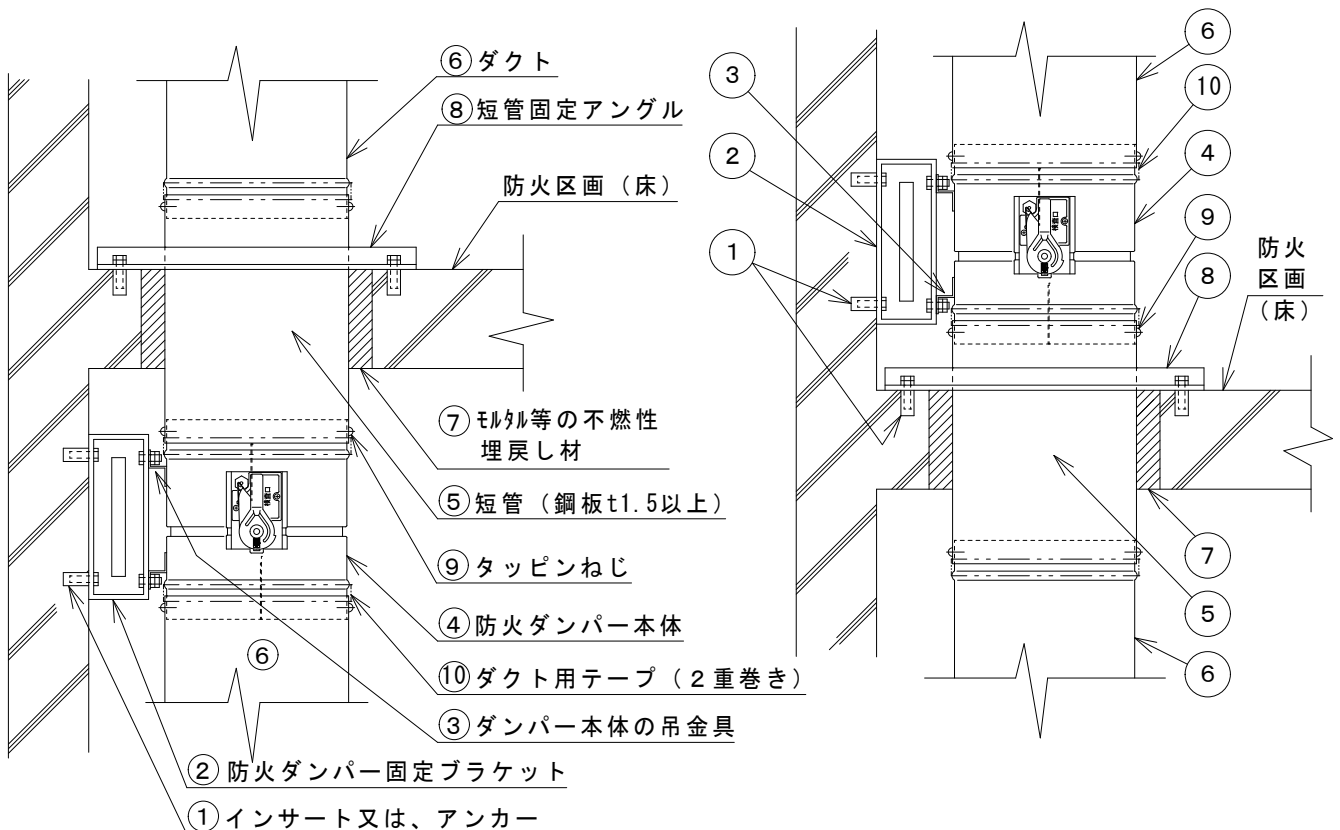


■立てダクト標準施工図

単位 (mm)

《施工例 1 : 下部取付の場合》

《施工例 2 : 上部取付の場合》

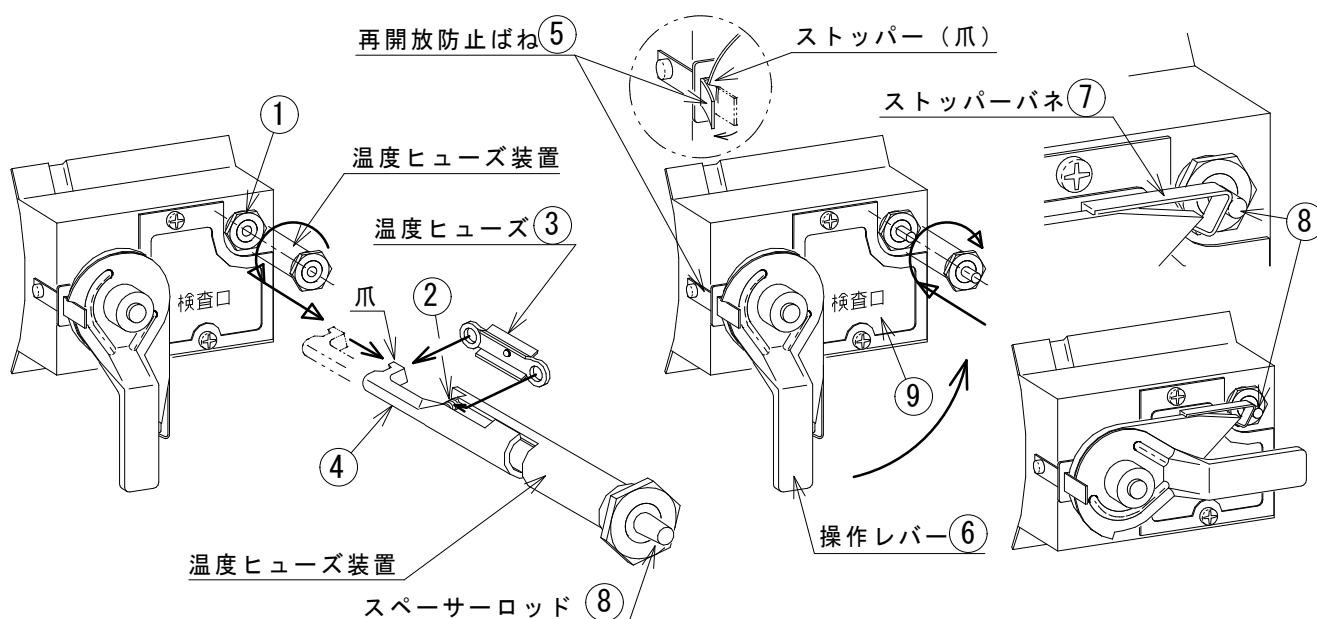


＝温度ヒューズの取替および復帰方法＝



注意

1. 温度ヒューズおよび温度ヒューズ装置を取替の場合は、メンテナンス会社に依頼してください。
(操作方法を熟知していない方や未経験者が行うとケガをする場合があります。)
2. 作業中は、必ず軍手を着用して下さい。
3. 温度ヒューズ公称72℃(型式：DH-2)・温度ヒューズ装置は、当社専用の製品をご使用下さい。
(類似品等を使用されますと、誤作動や火災時に不動作の原因となります。)
4. ダンパーを復帰させる時は、操作レバーをしっかりと手で握り復帰させて下さい。
(ばねの反発力にて、操作レバーで手をはさまれたり、はねられたりする恐れがあります。)



1. 温度ヒューズ装置の六角頭部①をスパナ(21mm)または、モンキーレンチを用いて回し、閉鎖装置より温度ヒューズ装置を抜取る。
2. 溶断し、二分した温度ヒューズを温度ヒューズ装置より取除く。
3. 六角穴付止めねじ②に、新しい温度ヒューズ③の片方をはめる。
4. スペーサー先端の爪が温度ヒューズ穴位置にくるまでスペーサー④を押し縮める。
(注意：スペーサーを押し縮める時、温度ヒューズ装置が滑るなどして手等を傷つけないように注意して下さい。)
5. 温度ヒューズをスペーサー先端の爪に引っかける。
6. 新しい温度ヒューズを取付けた温度ヒューズ装置を元の場所に差し込む。
7. 温度ヒューズの方向性は無いので、温度ヒューズ装置は最後までしっかりねじ込む。
(ねじ込みがかたい場合は、スパナ等を使用して下さい。)
8. 再開放防止ばね⑤をストッパー(爪)より外れるまで引き起こす。
9. 操作レバー⑥を手でしっかり握り、反時計方向に操作レバー⑥をゆっくり回す。
10. ストッパーバネ⑦がカチッと音を発し、スペーサーロッド⑧を完全に乗り越えたら、操作レバーより手をはなす。
(注意：必要以上に操作レバーを回すと閉鎖装置がこわれます。)
11. 検査口のフタ⑨を開け、可動羽根が復帰(開放)していることを確認する。
12. 検査口のフタ⑨を閉じ、復帰(開放)完了です。

■ 点検および保守内容



注意

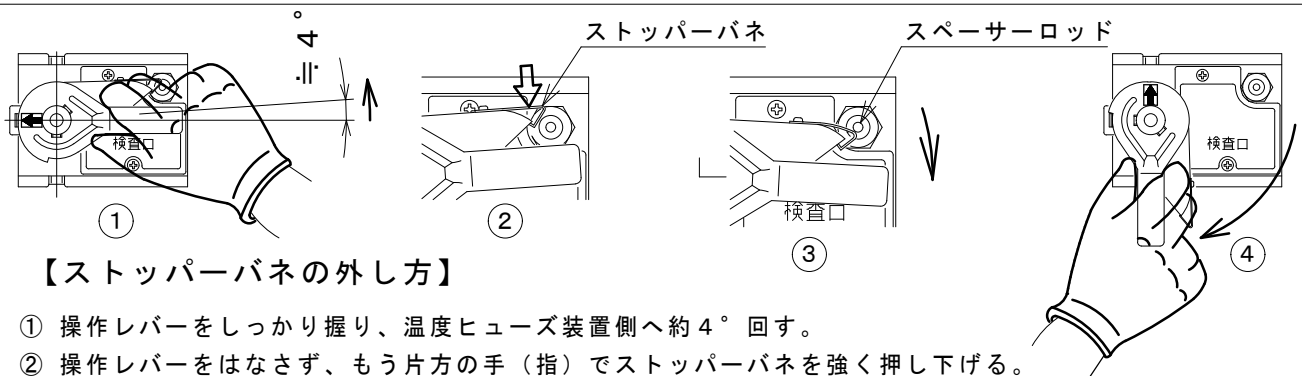
1. 保守点検を行う場合は、メンテナンス会社に依頼して下さい。
(未経験者が行くと操作方法を間違えたり、ケガをする場合があります。)
2. 保守点検時は必ず軍手を着用して下さい。
3. 保守点検は、6ヶ月に1回以上確実に行って下さい。
(保守点検を怠ると、ダンパーが円滑に作動しなくなる恐れがあります。)
4. 作動点検時、検査口内に手や工具等を入れたり、操作レバーの回転範囲内に手や物を置かないで下さい。
(ダンパーは、ねじりコイルばねの反発力にて閉作動します。可動羽根、操作レバー等で手などをはさまれたり、はねられたりする恐れがあります。)

【外観検査および保守】

1. 〈点検〉 ダンパーの周囲に閉鎖上障害となるものはないか。
[保守] 傷害となるものがあれば取除く。
2. 〈点検〉 ダンパーが、復帰（開放）状態でセットされているか。
[保守] 作動（閉鎖）状態であれば、原因を確認し、温度ヒューズまたは、温度ヒューズ装置を新しいものに取替、復帰する。
3. 〈点検〉 ダンパー本体を固定するダクト、固定ブラケット、棒鋼の取付ねじはゆるんでいないか。
[保守] ゆるんでいれば、増し締めを行う。
4. 〈点検〉 閉鎖装置の軸セットねじ（2ヶ所）はゆるんでいないか。
[保守] ゆるんでいれば、増し締めを行う。
5. 〈点検〉 ダンパー本体および閉鎖装置に著しい変形、損傷等はないか。
[保守] 著しい変形、損傷等により、装置としての機能を失っている場合や、その恐れがある場合はダンパー本体、閉鎖装置を修理または新しいものと取替る。

【作動点検および保守】

- 〈点検〉 閉鎖装置より温度ヒューズ装置を外し、温度ヒューズの表示温度、状態を確認し、手動操作にて可動羽根、閉鎖装置が円滑に作動するか確認する。
- [保守] (1) 当社専用の温度ヒューズ公称72℃（型式：DH-2）が付いていない場合、錆、経年変化等により著しく変色または変形している場合、ヒューズメタル合せ面のハンダが剥離しかかっている場合は、温度ヒューズを当社専用のものに取替る。（温度ヒューズの取替方法は、本取扱説明書の「温度ヒューズの取替および復帰方法」をお読み下さい。）
- (2) 可動羽根、閉鎖装置が円滑に作動、または作動しない場合の処理方法
- ・円滑に作動しない場合は復帰（開放）、作動（閉鎖）の動作を3～5回程度繰返し行う。
 - ・作動しない場合は、ダンパー本体をダクトより外し、修理または新しいものと取替える。



【ストッパーバネの外し方】

- ① 操作レバーをしっかりと握り、温度ヒューズ装置側へ約4°回す。
- ② 操作レバーをはなさず、もう片方の手（指）でストッパーバネを強く押し下げる。
- ③ スペーサーロッドよりストッパーバネを外す。
- ④ 操作レバーをしっかりと握ったまま、ゆっくりダンパーを閉鎖させる。

※ 点検後は温度ヒューズ装置を元の位置へ装着し、手動復帰（開放）させ可動羽根が確実に復帰していることを検査口より確認して下さい。また作業工具等を閉鎖装置の上や、周囲に置き忘れないで下さい。